



善峰寺多宝塔 修理前 外観

その他の保存修理現場

① 善峰寺 多宝塔 重文
 京都市西京区 〈屋根葺替・部分修理〉 | 元和7年(1621)
 善峰寺は長元3年(1030)に創立の天台宗寺院で、京都市西南部の山腹に位置します。現在の伽藍は、大部分が元禄年間に徳川綱吉と母桂昌院の援助によって再建されたものですが、多宝塔は棟札により、元和7年(1621)に建立されています。今回の多宝塔修理では、耐用年数を迎えた檜皮葺屋根の葺替を中心に、部分修理も実施しています。



東本願寺鐘楼 修理前 外観

② 真宗本廟東本願寺 阿弥陀堂門ほか2棟
 京都市下京区 〈屋根葺替・部分修理〉
 阿弥陀堂門 重文 明治44年(1911)
 鐘楼 重文 明治27年(1894)
 手水屋形 重文 明治28年(1895)
 真宗本廟東本願寺は、真宗大谷派の本山寺院で、京都市下京区の烏丸通に東面して境内を構えています。現在の伽藍は元治元年(1864)の大火後、明治期を中心に整えられました。今回の鐘楼修理では、耐用年数を迎えた檜皮葺屋根の葺替を中心に、銹金具の補修も実施しています。



杉本家住宅 修理前 外観

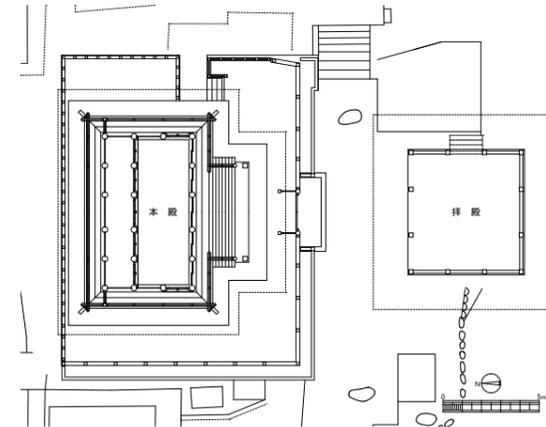
③ 杉本家住宅 主屋及び附高塀 重文
 京都市下京区 〈屋根葺替・部分修理〉
 明治3年(1870)
 四條烏丸の南西方向に所在し、綾小路通に面して広い屋敷地を占める町家です。現在の主屋は、元治元年(1864)の大火後に再建されたもので、市内でも規模の大きな町家建築となります。主屋・附高塀とも、棧瓦葺の屋根や土壁・板壁面の破損が進んでいたことから、今回は屋根の葺替と木部補修、土壁の修理などを行うとともに、耐震補強工事をあわせて行います。



神護寺大師堂 修理前 外観

④ 神護寺 大師堂 重文
 京都市右京区 〈屋根葺替・部分修理〉
 桃山時代
 神護寺は、清滝川の西北にそびえる高雄山の山腹に位置し、高野山真言宗遺跡本山で薬師如来を本尊とします。わけのきよまる和氣清麻呂の子息が最澄、空海を相次いで招請した歴史を持ち、一時衰退の時期も経て桃山期に大師堂の建立、近世以降に諸堂が整えられました。今回の大師堂修理では、耐用年数を迎えたこけら葺屋根の葺替を中心に、部分修理も実施しています。

清水寺本堂の北側に立地し、大國主命を主祭神として5柱の祭神を祀っています。現在は、縁結びの神社として広く知られています。
 現在の社殿は、寛永6年(1629)に清水寺の堂宇とともに火災で焼失した後に、徳川家光の命により再建されたものです。本殿の獅子口瓦に残る刻銘には、清水寺奥院・阿弥陀堂の鬼瓦に記された職人と同じ名前が確認でき、再建は清水寺の堂宇と一連で行われたことが分かります。
 本殿と拝殿、総門のほか、境内地が重要文化財として指定されています。



本殿及び拝殿 平面図



拝殿 檜皮葺施工の様子



本殿及び拝殿 修理前 外観

Jishu-Jinja shrine 地主神社 本殿及び拝殿

京都市東山区
 江戸時代前期 寛永8年(1631)
 事業期間：令和4年9月～令和6年12月(予定)

本殿及び拝殿 重文 《修理中》

本殿は、桁行5間、梁間3間で、正面に向拝1間が取り付いています。屋根は入母屋造、檜皮葺となっていて、極彩色や銹金具で装飾された華やかな建物です。内部は、外陣と内陣に区画されていて、内陣、外陣ともに山形の天井としているのが特徴的です。天井裏の部材には「寛永八年」という年号と檜皮職人の名前を記した墨書があり、これが建立年代の根拠となっています。

本殿は、桁行3間、梁間3間の、開放的な建物です。屋根は本殿と同じ入母屋造、檜皮葺ですが、棟の向きが90度異なっています。屋根の本殿側の軒先には、軒唐破風が取り付けます。また、南側の1間は崖にせり出し、清水寺本堂と同じく懸造という形式をもつのが特徴です。さらに、天井は鏡天井で、龍が描かれています。

修理の内容

前回の屋根葺替から46年が経過し、檜皮葺が耐用年数に達していました。また、同時期に塗り直された彩色や塗装に剥落がみられたことから、今回はそれらの修理を行っています。あわせて、耐震補強工事を実施します。